

レッドカード一発退場の時代

昭和の時代の医学生は、医学部に入った時、先輩たちに飲みを誘われ、一杯やりながら人生について学ばせていただいたものです。「クソ真面目なやつには、医者とは務まらないぞ。医者というものは、人間について裏も表も知らなければならない。なにごと社会勉強だ」、そんなふうと言われて、あちこちに連れて行かれて、先輩に導かれながら、酒や煙草や麻雀など、大人の世界に触れていったものです。ただ、あの時代は連れまわされる新人も、連れまわす先輩も実に大らかで、「まあ、かたいことは言わないで」という感じでしたから、今から思えば危ない橋を渡っていたように思います。すべては、古き良き時代の出来事です。

ともあれ、今の時代にあっては、未成年の飲酒・喫煙も、賭け麻雀も、可能性としては「レッドカード一発退場」となりえます。違法賭博を行ったオリンピック候補選手の例は、他人事ではありません。

「ファウルかどうか」の基準は、時代によって変わります。昨日まで見過ごされていたことが、今日から突然「ファウル」と見なされ、それどころか「レッドカード一発退場」となることもあり得ます。それを決めるのはルールを熟知した審判ではなく、客席を埋め尽くした名もなき観客たちです。

人の失態を見てみたいと思う人がいます。この人たちのためにスクープ記事を書いて、雑誌を売って、それで生計を立てている人もいます。当然、賛否があるでしょう。でも、観客席がどよめき立ってきたら、誰も止めることはできません。

私は、毎年春に当院の新人医師に対して「研修医のメンタルヘルス」と題する講演を行っています。このタイトルで、実は、「レッドカード一発退場」の話をしています。メディアで取り上げられた事例や医道審議会の行政処分例をふんだんに取り上げるので、新人にとっては恐怖の1時間となります。でも、これだって大切な「社会勉強」です。昔なら「若気の至り」で大目に見てもらえたことが、今はそうではない。以前なら豪放磊落な武勇伝と見なされたことが、今では公開処刑の対象となる。いやな時代です。そういう時代に生きる以上、相応の備えをするしかないように私は思います。

<執筆者紹介>

▼東北大学(医)卒。順天堂大学講師、准教授を経て、2008年から現職。

日本の大学病院で唯一の薬に頼らない精神科を主催。